

# JOFI OSAKA

JAPAN OFFICIAL FISHING INSTRUCTOR OSAKA



ジョフィおおさか

1999年(平成11年)6月1日

発行者/大阪府釣りインストラクター連絡機構・広報部  
 大阪市中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル3階34号 大阪府釣り団体協議会・本部内  
 TEL06-6245-4800 FAX06-6245-1360

VOL.4



平成11年度総会風景

平成11年度

## JOFI大阪 定時総会

'99事業、予算と新役員選出を承認

JOFI大阪の平成11年度定時「総会」は、4月23日、大阪中央区の大阪中央会館で開催しました。

木村章・事務局長の司会で開会。まず、中出隆文・理事を議長に、吉川幾久雄会長の新年度に対する所信あいさつ。続いて来賓の圓田純二大阪府農林水産部参事、佐々木雅人同技師から祝辞と、あいさつを戴きました。

その後、議案審議に入り、各部会委員長から平成10年度の「事業」「会計報告」同11年度の「事業計画」「予算案」と「新役員」の選出が行われ、吉川幾久雄の再任と推薦理事を全会一致で承認されました。

第二期理事会、各部会の新陣容発足

新年度から副会長制度導入、女性理事も初参加

JOFI大阪では5月10日、総会で承認された新理事の(99第1回理事会)を開催、事務局を始め各部会の担当委員選出を行い、新に副会長制度を導入することにしました。

機構組織の運営、事業活動などに伴う対外折衝なども拡大。会長職の役割も多様化するなかで副会長(3名)の役割も重要と考えられ新規選任を決定しました。

また第二期理事は女性2名も初参加して(54名)。事務局ほか各事業部門は監事会(5名)事務局(8名)会計部会(3名)事業部会(26名)広報部会(8名)地区委員長(3名)計54名の構成で発足しました。

なお、任期は平成11年4月から13年3月末までの2年間。





# 平成11年度 前途洋々の門出に託して



会長 吉川 幾久雄



野山に新緑鮮やかな初夏を迎えまして。  
さてJOFI I大阪では、さる4月23日、

さらに総会後開催しました第1回・理事会では各専門部会や各地区の担当委員を選出すると共に、一層の運営強化を図るため副会長(写真)制を採用、新体制でJOFI大阪の船出を期したのであります。  
今年には釣りインストラクターの地位向上にむけ一段の努力を傾け、立派な成果をあげたいと思いますので、全会員挙って参加して戴くことを念願する次第です。

平成11年度の総会をどうぞおこりなく開催、誠に喜ばしい次第です。とくに、この総会において、新たな人材の参加が得られ、JOFI大阪の運営、活動に、はち切れんばかりの意欲を示され、前途洋々の想いであります。  
また、事業、活動面では、現役会員らが協力一致。釣りへの情熱を釣りインストラクター活動に反映すると共に、ボランティア精神に徹して広く釣りを愛する人々の良きアドバイザーとして活躍、年々確固たるJOFI大阪の基盤を築かれている報告がなされ、今後の活躍に一層の努力を重ねて行く決意が示されました。

一方、本部でも、こうした参加への情報提供や窓口の拡大に努める一方、新年度総会には、組織の強化再編を行い、会員の積極的参加協力をお願いしたいと思っております。



副会長(新)  
新竹柳太郎



副会長(新)  
木村 章



副会長(新)  
来田 仁成

**'98 会議メモ**

4月12日 《理事会》 会員総会開催、事業・決算・監査報告、事業計画、会報発行、予算案、新役員選出の件協議。  
4月23日 《'99総会》 大阪中央会館で開催。新年度予算、役員選出など議決。  
5月10日 《'99第1回理事会》 各部委員会役員選出、新年度事業、活動計画策定、会報発行の件ほか協議。

## 平成10年度 会計報告

平成10年4月1日～平成11年3月31日

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
前期繰越し金	772,970	会議費	35,484
連絡会費	618,000	事務費	193,201
懇親会費	620,000	通信費	214,900
祝儀	71,000	印刷費	124,582
'99年ファミリー釣り大会		交通費	111,125
大阪府釣り団体競技会		懇親会費用	612,284
運営費	100,000	研修会費	54,509
朝食費	33,430	事務所費	50,000
昼食費	38,745	支払い手数料	11,382
利息	720		
支出計	1,481,895	支出計	1,407,467
		3/31残高	847,398
合計	2,254,865	合計	2,254,865

以上、監査の結果、適正と認め報告致します。

平成11年4月12日

監事 新竹柳太郎 末友 良治  
縄稚 久和 北村 龍雄  
見学 治 松尾 敏夫

## 平成11年度 予算

平成11年4月1日～平成12年3月31日

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
前期繰越し金	847,398	会議費	50,000
連絡会費	618,000	事務費	100,000
懇親会費	600,000	通信費	218,000
祝儀	50,000	印刷費	150,000
'99年ファミリー釣り大会		交通費	120,000
大阪府釣り団体競技会		懇親会費用	650,000
運営費	100,000	研修会費	50,000
駐車料	32,000	事務所費	50,000
		支払い手数料	12,000
		支出計	1,400,000
		次期繰越金	847,398
合計	2,247,398	合計	2,247,398

# 大阪府釣りインストラクター 連絡機構理事及び各部会委員

【理事会】理事

菊原 俊明	柴田 稔広	吉田 天三	前田 孝一	橋本 正信	小関 誠吾	佐藤 功	宮内 昭雄	松尾 勝士	山崎 勝彦	高木 博文	高淵 諒	山根 啓央	田中 行隆	東野 英治	中出 隆文	北田 敬明	中野 恵司	戸波 俊二	見学 治	北村 龍雄	縄稚 久和	末友 良治	木村 章	来田 仁成	新竹柳太郎	吉川幾久雄
小林 成芳	井波 良幸	越田 光	森脇 操	濱上 勲	物部 胤三	馬谷 昆司	村山 壽男	伊藤 豪浩	藤本 滋子	武井久美子	川島 昇	高田 政明	前田 米造	片岡 武義	成川 定雄	田頭 昭彦	沢山 信秋	宮島四十二	楠森 至朗	辻 哲男	尾崎 安弘	松本 光博	大浦 方至	川村 孝二	柴崎 隆	阿部健太郎

(順不同)

【会長】

【副会長】

【監事会】

【事務局】

事務局長

【会計部会】

委員長

【事業部会】

委員長

副委員長

佐藤 功	中出 隆文	柴田 稔広	越田 光	森脇 操	山崎 勝彦	松尾 勝士	宮内 昭雄	高淵 諒	高木 博文	山根 啓央	菊原 俊二	中野 恵司	戸波 俊二	見学 治	北村 龍雄	縄稚 久和	末友 良治	木村 章	来田 仁成	新竹柳太郎	吉川幾久雄
------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------

【広報部会】

委員長

副委員長

藤本 滋子	北田 敬明	井波 良幸	川嶋 芳	小関 誠吾	片岡 武義	成川 定雄	高木 博文	澤山 信秋	尾崎 安弘	楠森 至朗	辻 哲男	松本 光博	大浦 方至	川村 孝二	武井久美子	阿部健太郎	吉田 天三	前田 孝一	橋本 正信	宮内 昭雄	柴崎 隆	前田 米造	田中 行隆	小関 誠吾	東野 英治
-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------

【地区委員会】

北部地区委員長

中部地区委員長

南部地区委員長

北田 敬明	東野 英治	田中 行隆	田頭 昭彦	濱上 勲	物部 胤三	馬谷 昆司	村山 壽男	伊藤 豪浩
-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------

## 会報への投稿を歓迎します!

広報部会では、充実した会報作成のため会員の投稿を歓迎します。会運営に対する意見、提言。また、釣り場の環境問題をめぐるレポートなど、どしどしお寄せください。

多忙のため、会活動や行事に参加できない方などは、会報紙上を活用され、多いに会員間の交流を図って戴きたいと思ひます。

原稿の宛て先は、大阪府中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル3階34号、大阪府釣り団体協議会・本部内「JOF大阪広報部・編集係」郵送またはFAX06-6245-1360へお願ひします。(広報部会)



本報行

# 最前線

# '99新春懇親会

多数参加して盛大に開催



JOFI大阪・新春恒例の「'99新春懇親会」は、1月19日午後6時30分から大阪梅田JR駅前の「大阪ヒルトンホテル」真珠の間で多くの来賓、会員を迎え盛大に開催しました。



豪華料理を囲んで和やかな雰囲気の中、'99新春懇親会

東野英治・理事の司会で、吉川幾久雄・会長の開会挨拶。続いて各来賓の紹介。広瀬正巳・日本釣振興会近畿副支部長の来賓挨拶と続き北村龍雄・監事



来賓の紹介



開会挨拶する吉川幾久雄・会長

の乾杯で懇親立食パーティーに入りました。今回、初めて出席する会員も多く、

それぞれ華やかに盛り込まれた豪華料理を囲み互いに自己紹介。インストラクターの活動などを話題に和やかに新春のひとときを過ごしました。



豪華賞品のお楽しみ抽選会

とし喜ぶ者やハズレで嘆く者など笑いの渦で会場を沸かす場面もあり、互いに親交を深めました。

最後に、新竹柳太郎・監事の挨拶で同9時前に閉会しました。(写真・豪華料理を囲み盛大に催された'99新春懇親会場)

当日の来賓(順不同・敬称略)▽読売新聞大阪本社・滝川清▽デリースポーツ社編集局報道部・堀尾忠正▽釣の友社主幹・太田清信▽岳洋社取締役編集部長・馬屋原▽週刊つりニュース編集室・杉本幹則▽日本釣振興会近畿支部副支部長・広瀬正巳▽(株)コーセン・倉重外喜男▽(株)ささめ針営業企画部・織田貴己▽日紅商事社長・松浦順▽日本ボーイスカウト浪速地区進歩委員長・山田耕司。以上の各氏。

## ボーイスカウト大阪連盟から感謝状の授与

さる1月19日、大阪梅田のヒルトンホテルで開催しましたJOFI大阪主催の「'99新春懇親会」席上、ボーイスカウト大阪連盟なにわ地区進歩委員会の山田耕司委員長から、機構を代表し吉川幾久雄本会長に、釣り指導に対する感謝状が贈呈されました。

来田・新副会長らJOFI大阪の釣りインストラクターが3年前から「なには地区ボーイスカウト」の技能指導の一環として行われている「釣り章講習考査会」の指導にあたり、感謝の意を表されたもので、昨年は、泉南の大阪府立青少年海洋センターで中部地区メンバーも参加、ボーイスカウトと宿泊(1泊2日)を共にし、釣り技術やマナー、実釣などの指導に当たりました。本年も実施される予定です。

感謝状「貴会はボーイスカウト活動に深いご理解を示され、釣り章講習会においてスカウトの進歩に多大なるご援助を賜りました。ここに深く感謝の意を表します」以上原文。



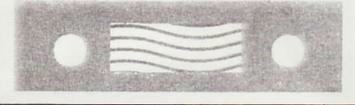
## '99事業計画

- 4月11日・18日・25日
    - ▽泉佐野市生涯学習センター主催第1回ルーティン・フッシングスクール(南部地区)
  - 5月8日・22日
    - ▽かしはらフッシングスクール「第5回土曜青少年釣り教室」(中部地区)
    - ▽枚方市民釣り教室(8月23・27日)
    - ▽11月5日まで各日曜日(北部地区)
    - ▽大阪市西区フッシングスクール(中部地区)
  - 7月
    - ▽淀川クリーンアップキャンペーン(北部地区)
    - ▽八幡市フッシングスクール(中部地区)
    - ▽大阪府釣りインストラクター研修会(本部主催)
  - 7月24日
    - ▽大阪府釣りインストラクター研修会(本部主催)
  - 8月1日
    - ▽泉南町「親子釣り大会」(南部地区)
    - ▽第3回普通救命士講習会(本部主催)
  - 8月8日
    - ▽大阪湾稚魚放流協力(全体参加)
  - 8月22日
    - ▽泉佐野市「99市民海釣り教室」
    - ▽9月5日までの各日曜技術講座。
  - 8月26日
    - ▽同・実釣会(南部地区)
  - 8月22日
    - ▽大阪府ファミリー釣り大会(全国)
    - ▽釣り場清掃デー(本部共催)
  - 9月12日
    - ▽ボーイスカウト大阪連盟釣り章講習会
  - 10月
    - ▽大阪西区民まわり(中部地区)
  - 11月7日・28日
    - ▽「社会百本釣り団体協議会主催平成11年度、公認釣りインストラクター養成講習会(西日本地区)
    - ▽インストラクター資格試験実行委員会
  - 平成12年
    - 1月18日
      - ▽大阪府釣りインストラクター連絡機構主催「'99懇親会」(本部主催)
    - 1月23日
      - ▽平成11年度、公認釣りインストラクター資格試験(西日本地区)
      - ▽インストラクター資格試験実行委員会(本部主催)
    - 3月
      - ▽大和川クリーンアップ(中部・南部地区)
- 以上(日付)空白事業は、日程調整につき決定次第公表します。(事業部会)

●JOFI大阪では、会規約の第6条に基づき、大阪府下を3ブロックに分割、地域会員の連絡網や活動組織の強化に努めています。この活動レポートは、地域会員がすでに会員間の交流を広げ活発な活動を展開している模様を皆さんにお知らせするコーナーです。



# 活動報告



南部地区

## 大和川・石川クリーン作戦

中部地区



柏原地区流域のクリーン作戦イベント

### 雨のなか 中部・南部地区が参加

中央、南部両地区委員会は、3月7日、「大和川・石川クリーン作戦」に参加、同川の清掃奉仕に協力しました。

大阪府・流域各市町村・建設省近畿地方建設局《主催》財団法人21世紀協会・大和川環境整備協会・大阪府海と渚環境美化推進委員会など《後援》各種団体が、府民の力でクリーンな大和川・石川をと呼びかけて開催している大掛かりな府民環境運動です。

当日は、生憎、朝から雨降りしきるなか、多くの流域市民らゴミ袋片手に熱心に川の中や河川敷の投棄物を拾い集め奉仕の汗を流しました。

中央地区委員会は中野委員長ら

20人が上流部の柏原流域で。南部地区委員会は北田委員長ら8人が下流部の堺流域で参加しましたが、集められたゴミの中にはエアコンや自転車など数人がかりで回収しなければならぬ大型ゴミも多く、大変な



雨の中、水辺のゴミを回収する南部地区会員ら。



柏原地区に参加した中部地区委員会メンバー



大きな投棄タイヤの回収に汗を流す中部地区メンバー

作業も見られました。

なお、同作戦は、4月4日、5月9日、6月6日にも行われました。両地区委員会では、継続して参加することになっていますので、出来るだけ多くの会員が参加して下さるようお願いいたします。

(南部地区・村山壽男)

### 全釣協公認・釣り指導員 資格試験講習会開催

社団法人・全日本釣り団体協議会、日本水産資源保護会主催、農林水産省後援の平成11年度、西日本(大阪)「公認・釣りインストラクター資格試験講習会」が11月27、28日の2日間。「資格試験」は1月23日の日程で、守口門真商会館で開催されます。

資格試験に必要な「釣り技術」「気象学」「漁業関係法令」「救急法」など専門講師による講習が行われます。

なお、詳細については、JOFI大阪事務局(TL06・6245・4800)迄。

### 一人、グループ活動 機構が支援します!?

JOFI大阪は、1999年度も大阪府下を中心に各地区で各種釣り教室の指導や環境運動の参加など、活発な活動を展開しますが、こうした本部や地区委員会が主体で活動する行事以外に、個人や少数グループが在住地や職域で釣り技術の普及活動や環境運動など釣りインストラクター活動を計画されたり、実行される場合は、本機構が支援します。

例えば、教材用釣り具や指導テキスト、会旗の貸し出し。また希望によってはベテラン指導員や講師の応援参加など強気にバックアップしますので、大いに釣りインストラクターの活動を展開して下さい。

(事業部委員長・中出隆文)

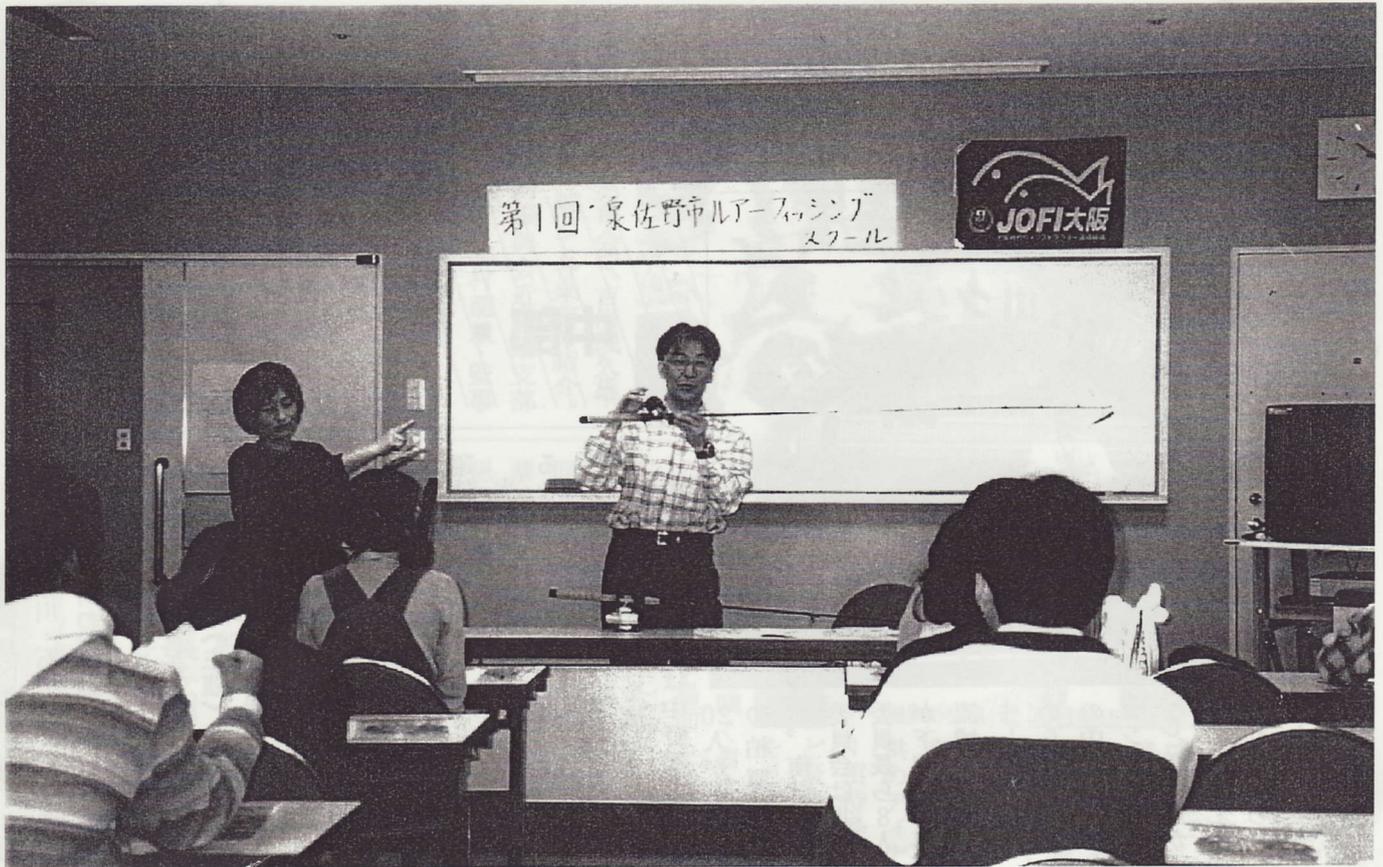
【支援受け付け窓口】▼本部TL06・6245・4800▼大阪中部地区委員会(東野方)TL0720・57・9032▼大阪北部地区委員会(田中方)06・6302・8253▼大阪南部地区委員会(北田方)0722・97・2962。

活動報告

人気広がる  
泉佐野市バスフィッシング教室

全員で釣り場の清掃も実習

南部地区



手話のボランティアも参加。泉佐野市ルアーフィッシングスクール(生涯学習センター講座室で)

南部地区委員会では4月11日から3週にわたる各日曜日、泉佐野市教育委員会・生涯学習センター主催で開催される「バスフィッシングスクール」の講義と実釣指導に当たりました。

南部地区委員会では、毎年、夏季シーズン、同センター主催の市民海釣り教室を担当していますが、好評につき、昨春秋、さらに教室を増設することにになり、急遽、青少年を対象にしたバス釣り教室を開講したところこれまた大好評を博しました。

夏季の市民海釣り教室と重なり長期指導となるため、当委員会では、本年より同スクールを春季開催に変更、改めて新規開講に踏み切りました。また、主催者側では、受講者も市内在住の対象を拡大、泉州地域全



美釣会のあと釣り場を清掃する、泉佐野市フィッシングスクール受講生たち!(泉佐野市・上の郷池で)

から募集、バスフィッシングのベテランで南部地区所属の伊藤豪浩委員が絶妙の講義で受講者を引き付けました。

また、最終日の「実釣会」では、実技指導の後、全員で池の周辺を清掃、環境運動へのPRも盛り込みました。

(南部地区・高木博文)



## 遊漁規制問題を抱えて 我々の真価が問われる時代!?

来田 仁成

これからの1年間、(社)全日本釣り団体協議会と、釣りインストラクターがその真価が問われる時がやってきた。

水産庁が、長い間の沈黙をやぶって、全国の都道府県の漁業調整規則を大幅にあらため、新しく遊漁規則を制定する方針を打ち出したのである。

今回の遊漁規則制定は、わが国の法制史上はじめて釣り人が「遊漁者」の名で正式に認められるわけで、このことについては積年の釣り人の願いが、ようやく実現することになる。

これまで各都道府県で施行されていた漁業調整規則は、漁業法と、水産資源保護法に基づいて基本の形を水産庁が定めて、これを各地方の実情に合わせ、漁業調整委員の審議を経た後に都道府県知事が定め、施行されてきたものである。その調整規則によれば、釣り人は「非漁民」として取り扱われ、特に海区では海面利用協議会という名称の、釣りと漁業との調整のための知事の諮問機関が各府県に存在してはいても、調整規則そのものに対する発言の機会は一切認められてきていない。

遊漁規則の制定を機会として、当然釣り人の意見も正式に聞いてもらえる形が出てくるはずで、(社)全日本釣り団体協議会が設立され、釣りインストラクター、フィッシングマスター制度が推進されてきたのもひとえに、この時のためであった

と表現してもさしつかえないと考えられる。

新しく定められる規則の内容に関してはまだこれから、全釣り協で発足する専門委員会で、あらゆる分野の釣り人の意見を求めながら練り上げて、水産庁に提案していかなければならないのだが、水産庁としては、本年6月には、各都道府県の水産担当官に主旨を説明し、8月には規則のあらましをまとめ、本年度中には決定のはこびとしたいとのことだ。

さて、これから、わたしたち釣りインストラクターは、まず新しい遊漁規則の内容を検討からはじめねばならない。それも原案ができるまでの短い間に、釣り人なりのたたき台を提案する必要があるだろう。

次に、水産庁からの全国共通の遊漁規則案がまとまり、各都道府県に知らされた時点で、地方の事情に合わせた内容の検討にとりかかる。さらに、このための話し合いに釣り人代表を送り込み、府県から示されるであろう規則案の中身の審議に対処しなければならない。

それだけの内容に対応できる知識が身についているどうか、冷静に、きちんと対応できるかどうか、いいかえればそれにふさわしい代表をおくりだせるかどうか。このことによって組織の真価が問われるのは当然のことである。こころして取り組まねばならない1年なのだ。

(JOFI大阪・副会長)

BACK STAGE



# 大和川 環境調査レポート

## 自然豊かな行政施策に期待!

見学 治



話は遡るが、以前「川と水を美しくする会」と云う自然保護運動団体から大和川河口の魚類調査の協力依頼を受けた事がある。

生態のサンプル調査のため河口流域の魚を釣って欲しいと云う要請であり、主旨に賛同して参加した。

当時、大和川の河口は両岸とも整備されておらず、以前からの自然を残していたものの、中洲や堤防の水際は漂着した夥しい投棄ゴミが漂着、見るも無残な姿を露呈していた。

釣り人にとつては、そのような状況下で魚を釣ることに強い抵抗を感じた。だが、調査の建前上、断る訳にもゆかず、調査当日、さて、どうなるものかと、傘下釣りクラブのメンバーと左岸のそれらしきポイントで竿を出したのである。釣果は、まずまず足らずのゴトヒキ(通称シマイサギ)の入れ食いだった。この魚、成長すれば、20センチにもなり、到底

大阪湾などでは、お目にかかれない代物である。そのような稚魚が何故?汚染の進む「死の川」で育つのか、理解に苦しむ感があった。

また、河口で群れをなし回遊するボラに目をつけた主催者側の断つての要請で、急遽、メンバー2人を釣具店に走らせ、購入した仕掛けのスバルでキャンセルし、検体用として40〜50センチを数匹を釣らせた。

主催者側が、そのボラを切開調査したところ、腹から出て来るのは正にヘドロ。居合わす人達をびっくり仰天させたのである。

その後、この団体が、どのような結論を出し、どのような活動を展開したのか。また、我々の協力がどれほど役立てられたかは定かではないが、当時の大和川の環境は散々たる状況であった事は事実である。

さて、時代も昭和から平成と移り、現在の大和川河口は改修も進み、一応は美観を備えた形態を保たれているが、それは、残された自然を跡形もなく消し去ったコンクリートの固まり。子供たちが網で小魚を掬った水辺や、トンボや蝶を追った河川敷など、自然豊かな昔懐かしの環境を想像する事もできないほど様変わりしているのである。防災を優先させる行政のなせる施策の結果であろうか...

だが、現実の河口域は、冬になればカモを始め幾種類もの渡り鳥がやって来

て春まで滞在している。エサの小魚や虫が豊富であることの証明かも知れない。また、南港周辺では野鳥公園が造られ、バードウォッチングが。海辺では釣り公園が賑わい小アジのサビキ釣りが人気を集めたり、スズキやチヌの大型が狙えてなど四季折々の釣りを楽しめるようになった。さらに上流に足を延ばせば、コイやフナが糸を垂らせば釣れると云う。

しかし、自然破壊のツケは至る所に残っていることも事実だ。残念ながら河口域にはウナギやカニなど棲みつく石垣がない。川底にも石が沢山あり、変化に富んでいけば水質の浄化も進み、いろいろな生き物が育つだろう。これこそ誰しも待ち望む自然の復活につながるのではなからうか。コンクリートで固めた堤防の底に砂を敷き詰めただけの状態では、川は成り立たず単なる水路としか思えないのである。

環境調査に参加協力した当時を振り返れば、大和川流域や河口も善かれ悪かれ大きく変遷している。行政の施策が拡大され、企業や住民の水や環境に対する認識が育まれつつあるのは喜ばしい。

さりとて現実には、全国有数のワースト河川としての厳しい烙印は如何にせん悲しい極みである。

総ての人が協力し合って、アユの遡上が復活する美しい大和川の姿を眺めることが出来るのは、何時の日か夢見る想いである。(本部監事)

### 編集後記

◆平成11年度の総会で第二期理事など各事業部門委員が決まり、事業や活動方針が新しい陣容で展開されることになりました。しかし、この第2期役員組織が誕生するまでにはJOFI大阪の発足と運営の道筋を切り開いてきた第一期の理事、委員らの熱意と懸命の努力の積み重ねがありました。

◆発足に備え(世話人)として暗中模索で何度も会合を重ね、時には激論を戦わせてJOFI大阪組織の基盤を築きあげてきた訳です。さらに平成8年の発足後は、ゼロに等しい事業、活動を広げ、いまや、各地で釣り教室の指導、環境運動に参加、各方面の期待を担うまで発展するとともに、全国各府県の釣りインストラクター組織のモデル的存在となるにいたった訳です。

◆したがって、今期誕生した第2期理事、委員は、これらの実績を元に、さらなる発展を期待して大幅に新参加者を迎えるの陣容となり、新感覚での運営を期待するものであります。今年、釣り人をめぐる漁業規制法や環境問題など多くの課題も立ちはたかっております。また、11月には新に公認資格試験講習会を開催され、来春には、さらに会員が増え、これら新会員の活動参加への場を広げなければなりません。それだけに、第2期役員活躍を多に期待されているところであります。全会員が協力しあって公認、釣り指導者としての真価を発揮したいと思えます。

(広報部会委員長 北田敬明)